

巻頭言

ネットの弊害

八木 伸行



2012年に本学に着任して9年が経過し、この3月末に定年退職する。その間、メディア情報学部情報システム学科（初年度のみ環境情報学部情報メディア学科）の教員として情報学を教え、情報基盤センターの横浜担当副所長（初年度のみ運営委員）として情報基盤の整備に従事してきた。

その過程で気になったことは、「今の学生はネットに頼りすぎていないか」ということである。授業でレポート課題を出すと、ネットからのコピーの寄せ集めのようなレポートが出てくる。授業で話していない内容も盛り込まれている。理解してまとめているように思えない。事例研究で調べ学習して発表する課題を出すと、すぐにネット検索に走る。一見、うまくプレゼンするが、質問すると答えられない。理解しないまま、まとめている。卒業研究では、ネット公開されているツールを使うケースが多いが、ブラックボックスのまま使っている。中身を知らないで使って気持ち悪くないのかと思うが、気にしていない。指導の際に何々の授業で話した内容だと指摘すると、聞いたような気がするけど忘れたと答える。理解しないで覚えるとすぐ忘れる。役に立つ知識にならないと話したら、そんなことしていれば時間がかかるので、やらないと言う学生までいる。勉強とは元来時間がかかるもので、それを惜しんでどうするんだ、そもそも理解する気もなかったのかと、かなりの衝撃であった。パターンで覚えてテストに対処してきたようである。これは、今のディープラーニングを主体とする人工知能が最も得意とすることで、そんな勉強法では、2045年を待たずにシンギュラリティがやってくるのではないかと思ってしまう。「人工知能で東大に合格する」を旗印に始まった東ロボプロジェクトは、記述式問題で頓挫した。問題の趣旨が理解できないと解けない問題にぶち当たったためである。その過程で行われた調査で明らかになった衝撃的な事実、天然知能（今の学生）も、かなりの割合で文章の意味構造が理解できていないという結果である。教科書の文章が読み解けないために勉強ができない学生がいるということである。これでは、自主学習が必須の大学教育が成立しない。他大学の先生からも似たような事例を聞くので、本学に限った話でないようである。国際的に戦うために英語能力も重要なのだが、母国語が思考の武器として使えないようだと言えない話にならない。

昨今、講義のような覚えるだけの詰め込み授業は駄目で、アクティブラーニング、PBL教育が推奨されている。考える授業でないと駄目だということであるが、今、ノーベル賞をもらっている人たちは、詰め込み学習で学んだ世代である。答えの分からない問題を解ける能力をつける授業をすることが叫ばれた時期があったが、その頃、答えがわかっている問題すら解けない学生に、どう対処したらよいのかといった話を、他大学の先生と交わしたことがある。これらは従来型の授業が理解できていることが前提の話である。理解できていないのに考えることはできないし、十分な知識もなく考えても議論しても生まれるものは低レベルである。多くの先人たちが蓄積してきた知恵への到達には程遠い。アクティブラーニングやPBLでは、学習態度も評価対象になっている。新しい入試に対応すべく内申書の評価を上げるために積極的に質問をするなどの対処法も塾で指導されているとも聞く。その結果なのか、授業で話したことやテキストに書いてあることを、そのまま質問してくる学生もいる。勉強できなくても良い成績をもらうテクニックを身に付けただけなのか。自分で調べて理解する努力をして、質問してこない学生の方がよっぽど勉強しているのではないのかと思う。聞いても読んでもわからないということだろうか。このような状況の中で、アクティブラーニング、PBLは、本当に効果があるのかと思ってしまう。問題の本質は違うところにあるような気がしてならない。教育スタイルの問題ではなく、学習スタイルの問題ではないかと思わざるを得ない。学生の勉強法を根本的に変えさせないといけないのではないか。こんなことを大学で指導しているようでは遅すぎるのではないかと思うが、社会に出てともに働いてもらうためには不可欠なことだと思う。大学で得た知識はベースになるが、それだけでは数年間も持たない。直面する答えがわからない課題に対処するためには、自学自習し続けなくてはならない。ネット検索して答えが出てくるような課題であれば、人工知能で代替可能である。ネットに振り回されるのではなく、ネットを上手に使うて真に学んでほしいと思う。そのために必要なことは、早く自分に合った勉強法を見つけ出し、身に付けることではないだろうか。

バブル以降、手っ取り早く成果を上げることが評価されるようになったように感じる。成果が出にくい基礎研究がおろそかになっているのも同根ではないかと思う。今の学生は、こういった風潮に敏感に反応しているようにも感じる。地道にコツコツ積み上げることが尊ばれるような社会になってもらいたい。そうして、学生も地道に正しく勉強するようになることを祈る。

YAGI Nobuyuki

東京都市大学メディア情報学部情報システム学科教授